

[果樹部門 令和4年度 普及する技術]

事項名	ブルーベリー害虫ミズキカタカイガラムシの防除法		
ねらい	近年ブルーベリーのミズキカタカイガラムシの被害が拡大傾向にある。本種のふ化幼虫は、ブルーベリーの収穫期頃になると果実上を歩行するため、発生が多くなると収穫果に幼虫が混入し、出荷できない。そこで、発芽前に使用するマシン油乳剤（ラビサンスプレー）の防除効果を明らかにしたので普及に移す。		
普及する内容	<p>1 ミズキカタカイガラムシの発生生態</p> <p>(1) 寄主植物 寄主範囲が広く、ブルーベリー、ぶどう、もも、かきなどのほかに、やなぎ、かえで、とちのきなどにも発生する。</p> <p>(2) 発生生態 年に1回発生し、中齢幼虫（体長約 0.8mm）が枝幹部や地際部の粗皮下で越冬する。越冬後、気温の上昇とともに越冬幼虫は移動し、地際部から枝の先端まで樹全体に分散して定着する。5月中旬頃頃から未成熟雌成虫が発生し、その後成熟雌成虫（体長約 4～6 mm）となり、5月下旬頃から産卵する。6月下旬頃にふ化幼虫（体長約 0.4mm）が移動し始め、葉裏に定着する。ふ化幼虫が葉へ移動する際、果実上を歩行することもある。葉が紅葉すると幼虫は越冬場所へ移動する。</p> <p>2 薬剤防除 越冬幼虫を対象として「発芽前」に、ラビサンスプレー30 倍液を 10 a 当たり 200L 散布する。地際部から枝の先端まで樹全体に十分かかるように、ていねいに散布する。</p> <p>3 ラビサンスプレーの概要</p> <p>(1) 一般名：マシン油乳剤 (2) 商品名：ラビサンスプレー (3) 有効成分：マシン油（IRAC -）98.0% (4) 人畜毒性：普通物</p> <p>4 ラビサンスプレーの使用基準（ミズキカタカイガラムシに対する「発芽前」の使用）</p> <p>(1) 適用害虫：カイガラムシ類 (2) 希釈倍数：30 倍 (3) 使用方法：散布 (4) 散布液量：200～700 L/10 a (5) 使用時期：発芽前 (6) 使用回数：－ (7) 総使用回数：－</p>		
期待される効果	ミズキカタカイガラムシの発生密度の低下と被害の軽減が図られる。		
普及上の注意事項	<p>1 本資料は令和4年1月18日現在の農業登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農業を使用する場合は、必ず最新の農業登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農業情報」 (https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農業登録情報提供システム」 (https://pesticide.maff.go.jp/)</p> <p>3 「発芽前」の散布時に、枝に雌成虫の介（カイ）殻が見られることがあるが、前年6月の産卵後に死亡したものであり、防除対象ではない。</p>		
問い合わせ先（電話番号）	りんご研究所 県南果樹部（0178-62-4111）	対象地域	県内全域のブルーベリー作付経営体
発表文献等	令和元、2年度 りんご研究所試験研究成績概要集（特産果樹）		

【根拠となった主要な試験結果】



図1 越冬幼虫（黄枠、防除対象）と雌成虫の介（カイ）殻（赤枠、死亡しているため防除対象ではない）（12月）

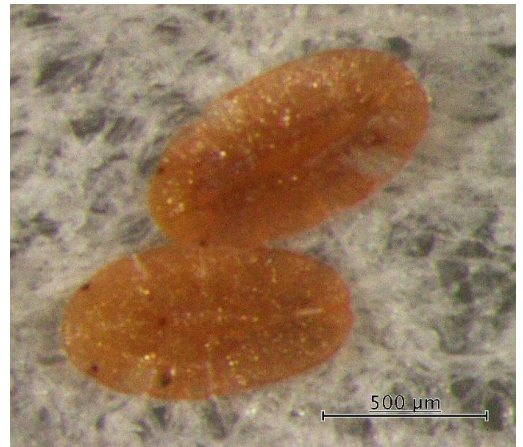


図2 越冬幼虫



図3 越冬後に枝先に分散した幼虫（4月上旬）



図4 未成熟雌成虫（5月中旬）



図5 成熟雌成虫（6月上旬）



図6 果梗を移動するふ化幼虫（矢印）（6月下旬）



図7 葉裏に定着した幼虫（7月中旬）

表1 ミズキカタカイガラムシに対するラビサンスプレーの防除効果

(令和元年 青森りんご研県南果樹)

供試薬剤	希釈倍数	樹No.	散布19日後		薬害
			生存虫数	死亡虫数	
ラビサンスプレー	30倍	1	0	140	なし
		2	0	112	なし
		3	0	171	なし
		合計	0	423	
無 散 布	—	1	270	29	
		2	284	6	
		3	149	7	
		合計	703	42	

- (注) 1 供試樹：「ハーバート」(36年生) 1区3樹
 2 薬剤散布：3月20日にSSで散布
 3 調査方法：散布前に越冬幼虫の寄生が見られる1年枝(1~3枝/樹)にラベルをし、散布19日後(4月8日)に生死虫数を調査

表2 ミズキカタカイガラムシに対するラビサンスプレーの防除効果

(令和2年 青森りんご研県南果樹)

供試薬剤	希釈倍数	樹No.	散布22日後		薬害
			生存虫数	死亡虫数	
ラビサンスプレー	30倍	1	1	34	なし
		2	2	192	なし
		3	1	33	なし
		合計	4	259	
無 散 布	—	1	292	14	
		2	177	18	
		3	119	4	
		合計	588	36	

- (注) 1 供試樹：「ノースランド」(37年生) 1区3樹
 2 薬剤散布：3月25日に背負い式噴霧器で1L/樹を散布
 3 調査方法：越冬幼虫が多発している枝(3枝/樹)にラベルをして散布し、散布22日後(4月16日)に生死虫数を調査

(参考価格) 30倍10a当たり200L散布で、2,556円(税込み)。